

# HFHJ Newsletter

ハビタット・ジャパン ニュースレター

第23号 2011年10月発行

## 東北支援：活動を拡大、復興に向けた長期支援も視野に

**東**日本大震災から半年以上が経過した被災地では、日々の状況が刻々と変化中、これまで多くのボランティアを動員し行われてきたがれき撤去や汚泥除去、公園・側溝といった公共インフラにおける清掃活動などについて、多くの支援団体がその活動を終了または縮小させています。その一方で、仮設住宅・みなし仮設(民間賃貸アパート)への引越しが架橋を向かえています。ハビタット・ジャパンでは、4月より開始した岩手県大船渡市・陸前高田市での支援活動に加え、8月より新たに宮城県石巻市で支援活動を開始。9月末現在までに総勢300名に上るボランティアの皆さんと共に、継続的な活動を展開してきました。現在、仮設住宅への支援、とくに冬場対策に向けて取り組んでいます。



仮設住宅への布団配布@宮城県女川町



地盤沈下で多くが水没した  
宮城県石巻市尾崎

### まだまだ支援が届かない…

宮城県石巻市は、大地震と津波による死者・行方不明者が4,000名を越すなど、今回の震災で最も大きな被害を受けた自治体の一つ。電気や水道などのライフライン、また壊れた橋の復旧によって、夏場を迎えようやく車両が入れるようになった地域もあり、震災以来ほとんど手付かずのまま、ボランティアの支援をまだまだ必要とする住民が数多く存在する状況を受け、ハビタット・ジャパンは支援を決定しました。

### 支援を可能にした 学生ボランティアリーダー

8月以降、ハビタット・ジャパンの学生支部(CC: Campus Chapter)メンバーがボランティアリーダーとして、全国各地から集まるボランティアの皆さんの現地活動をサポートしてきました。とりわけ、

地震による地盤沈下が深刻で多くの土地が海に沈んでしまった、旧北上川下流に位置する石巻市尾崎(おのさき)など、被害の大きかった地域では、ボランティア活動を効率的かつ安全に取り進めるため、現地の事前視察など入念な



学生ボランティア  
リーダーが現地

調整を実施。震災から5カ月が経過したにもかかわらずアクセスが限られた地域や、潮の満ち引きのために作業時間が限られるような地域での活動を可能にしてきました。

### 長期支援を見据えて

ハビタット・ジャパンでは、これまで主に実施してきたがれき撤去や汚泥除去、家屋修繕に加え、新たに震災被災者の生活拠点となる仮設住宅への支援を開始しました。9月22日には、宮城県女川町の仮設住宅(新田地区)への入居を翌日に控えた45世帯に対して布

団セット(144名分)を配布。今後、10月末までに、第二回、第三回の配布(合計728名分)を行います。

仮設住宅への支援状況は入居日や立地条件によってまちまちで、支援の届いていない地域や個人もまだまだ数多く存在しているのが現状です。今後は長期支援も視野に、仮設住宅における冬場対策や家屋の修繕作業、そして被災地域・コミュニティの活性化を目指した活動を行っていく予定です。



被災前、生活用 水が流れていた水路  
がれき・へ泥の 除去で、水が戻った

### ◆ハビタット東北支援イベント案内◆

10月15日(土)  
東北支援活動報告会 in ハビびと集会  
時間: 15:00-17:00  
場所: 岐部ホール 309号室 (東京・四ツ谷)

10月22日(土)・23日(日)  
よこはま国際フェスタ  
時間: 10:30-17:00  
場所: 象の鼻パーク・波止場会館  
復興支援ゾーンでブースを出展します。

※詳細はハビタット・ジャパンHPで

## 企業支援：日産プロジェクト in タイ&インドネシア始動！



タイ日産社員ボランティアとホームオーナー家族

**タ**イの首都バンコクから南東へ車で約1時間、タイ日産の工場が位置するサムプラカン県にて、その周辺コミュニティに対

日産自動車株式会社(本社:神奈川県横浜市西区)は、昨年春よりインド・チェンナイ市で実施する75軒の住居建築プロジェクト支援に続き、タイ、インドネシアの日産工場周辺コミュニティにおけるプロジェクト支援を決定。8月には、タイ日産社員ボランティアの皆さんも参加して住居建築活動が行われました。

する10軒の住居建築支援プロジェクト(70,000米ドル相当)が始まりました。8月には、現地社員による建築活動も行われ、9月末現在、4軒が完成。残りの6軒については11月中の完成を目指して急ピッチで作業が進められています。

的な生活向上を目指した生活指導支援も視野に入れた活動を予定しています。

一方、インドネシアでは、ジャワ島の南西部に位置する西ジャワ州プルワカルタ県にて、100世帯の家族に対する住居建築・修繕支援と水道設備の改善支援(147,000米ドル相当)が間もなく始まります。プルワカルタは有数の工業地帯として知られ、周辺にはインドネシア日産工場も操業していることから、日産とハビタットはコミュニティ支援の一環として、持続

◆インドプロジェクト進捗報告: 63軒が完成(うち43軒がホームオーナー家族への引き渡しも完了)。物価の高騰により、資材調達が難航しているため、残り12軒分が未完成。資材の調達が終わり次第、建築作業を取り進める予定です。



建築活動中@タイ

完成した家のタイ

## 海外事業：スリランカ、きぼうの家100軒の完成に向けて発進！

**8**月、特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)からの追加支援により、北部マナー県において、さらに70軒の住居(コアハウス)を建築することが決定。現地では、これまでに完成した17軒と合わせ、来春までに100軒の建築を計画。その実現に向け動き出しました。スリランカ事業は、今年4月からJPFの助成を受けて開始。2009年の内戦終結後、故郷へ帰還する国内避難民の再定住を、ハビタット・スリランカと連携して支援しています。



### ハビびと

#### エイミー花城 さん

オークウッドプレミア東京ミッドタウン 副総支配人

**オ**ークウッド社(Oakwood)の日本におけるハビタット支援を牽引してきたエイミー花城さんは、「もっと社員が参加できる社会貢献を」と語る。オーク



ウッド社は、世界の主要都市でホテル事業を展開、日本では中長期滞在者向けのアパートメントサービスを都内7店舗で提供する。各店舗で

は、ハビタットの募金箱設置に加え、社員手作りのクリスマスカードの販売を通じて募金活動を実施。また昨年は、ハビタット・ジャパンの支援者向け交流会「ハビタット・プレミアムナイト」の開催もサポートした。

ハワイで生まれ育ち、大学時代にハビタットと出会い建築活動に参加したエイミーさん。その後、祖父母の故郷である日本に移り住んだが、今も変わらずに大切にしているものがあるという。「アロハの精神」だ。

TakeよりもGiveを大切に考えるその精神は、企画するイベントやグッズ製作を通じて、「社内チーム育成に役立ってい

る」とエイミーさん。年間のコーヒー代のうち半分でも募金箱に入れたら何ができるか?と日々社員に問いかける。「習慣は自分で身に付けるもの。席を譲ったりゴミを拾ったりするのと同じ」と語る彼女は、企画に参加する社員が日々の仕事の中で自ら進んで他人のために動くことができるようになっていてのを感じるという。

将来は、「希望する社員の給与の一部を社会貢献活動に回せるような仕組みが一般化すればいいと思う。でも、まずは各企業それぞれの得意分野を生かす形で何かを始めることが大切」。現在、オークウッド社が誇るネットワークやラウンジスペースを活用した異業種間交流会「ワインナイト」を毎週開催。ハビタットも招待し、来場者に社会貢献を始めるきっかけを提供すると共に、その一つの支援モデルを自ら実践している。

イベント報告：ハビタットの活動とその重要性、内外にアピール

＜CEO来日＞  
9月14日

ハビタット・インターナショナル(本部)から最高経営責任者(CEO)を務めるジョナサン・レックフォード(Jonathan Reckford)氏が来日。ハビタット・ジャパンの支援者や関係者約50名を招いて、活動報告会を行いました。報告会後の意見交換会では、ハビタットを代表して挨拶を行い、ハビタットへの理解と協力に感謝の意を述べると共に、「東日本大震災は本当に痛ましい出来事でした。しかし、今こそハビタットは被災者の方々のためにできる限りのことをしていかなければならない」と、その思いを訴えました。他方、海外支援についても、海外住居建築活動を通じた日本人の参加がアジア諸国に及ぼすインパクトの大きさなどに触れ、さらなる支援参加を呼びかけました。参加者の中からは、「アジアの中の日本だからこそ、できる支援がある」との声も聞かれ、国の内外を問わず、ハビタット・ジャパンが担う役割の重要性がますます高まっていることを再認識する機会となりました。



＜関東イベント＞  
10月1日～2日

日比谷公園(東京・千代田区)で毎年開催される日本最大級の国際協力イベント「グローバルフェスタJAPAN」に今年も出展しました。「絆」が全体テーマの今回、会場には東北の被災地支援に関するブースや催しが多数ありました。ハビタットのブースでは、東北支援の取り組みに加え、海外住居建築活動(GV: Global Village program)についても大きく紹介。GVの特長や仕組み、参加する意義や面白さ、渡航までの手続きなどを、映像や資料の活用に加え、運営スタッフ全員がハビタットTシャツやつなぎを着用するなどして、ブースいっぱいに応援しました。また、ハビタットは初日のメインステージにおいて、お笑い芸人サンドウィッチマンとのパネルディスカッションに出演。大勢の来場者の前で、ハビタット・ジャパンの学生支部メンバーである今西美紗さん(関西大学4年)が、東北支援とGVの両方に参加した経験を交えて、ボランティア活動の意義とやりがいについて話しました。



ユースプログラム：全国で心を一つに活動、今後の可能性も議論

＜合同募金＞  
7月9日～10日

ハビタット・ジャパンの学生支部(CC: Campus Chapter)が、東北支援のための一斉街頭募金活動を実施、2日間で総額65万円に上る支援金を集めました。「関西の力を東北に」をスローガンに、関西のCCグループ(関西JCC)が企画を主導。当日は静岡から大分に至る全国11のCCが参加し、延べ200人の学生が支援を呼びかけました。今回、被災地の惨状を目の当たりにし、テレビの前でなす術もなく悔しい思いをしたメンバーや、実際に現地を訪れ、その絶望感で心を痛めたメンバーも多かった中、「ハビタット・ジャパンのCCとして自分たちに何が出来るのか」、「関西発信で出来ることはないのか」と議論を重ね、辿り着いた答えが合同募金でした。私自身、被災地へ行き、ボランティア活動参加を通して多くのことを感じましたが、そうした私たちとそして今回支援して下さった方々の思いが、少しでも被災地の復興につながればよいと考えています。(関西学院大学CC・江崎良太)



＜御殿場合宿＞  
9月24日～25日

静岡県御殿場市にある国立中央青少年交流の家で、東西CC合同ワークショップを開催しました。今年のテーマは、「交流&理解:新たな可能性を考える2日間」。ハビタット・ジャパンが新たな取り組みをスタートさせる中、その学生支部(CC: Campus Chapter)にも新しい視点を提供したいという思いを込めています。当日は、全国14のCCおよびCC候補団体から総勢80名が参加、一つ屋根の下で短くも濃い時間を過ごしました。ワークショップの一つ、「ネゴシエーション・クッキング」では、各チームがくじ引きで「責任食材」を一種類決め、他のチームが持つ食材と交渉を通じて交換しながら夕食作りを実施。交渉という駆け引きの中で、協力し合うことの大切さを学び、交流を深めました。また、もう一つのワークショップ「ハビタット・カフェ」では、海外住居建築活動の面白さや意義、今後やってみたい取り組みについて自由に意見交換、様々なアイデアを出し合い、今後の可能性について議論しました。





海外建築ボランティア活動報告!

With 地球の歩き方

2011年夏

ハビタットが「地球の歩き方」と共同で派遣する一般募集チーム「Japan Hope Builders」が、



今夏もタイ・バンコク郊外での活動を終了。2チーム計34名(大学生31名、高校生1名、社会人2名)がそれぞれ1軒の家を建て、無事に帰国しました。※今回の活動は、オークウッド東京ならびにILBS国際福祉協会の支援をベースに、日本人チームが現地で作家を建てる「ジャパンプロジェクト」として実現しました。厚く御礼申し上げます。

◆ 参加者の声 小林桃莉さん(高校2年生・女性)

今回、たくさんの仲間や現地の人々と一緒に、一軒の家を建てました。完成に近づくにつれて、それまでの疲労も達成感に変わりました。それに自分が建築に関わった家だから、私の家ではないのだけど、すごく大切に感じられて、ホームオーナーさんに一生暮らして行ってほしいなと思いました。私は高校生ですが、周りは全員大学生。最初はすごくアウェイ感もあって話せなかったけど、それも1日目のワークが終わった時にはすっかり溶け込んでいました。だから高校生でも心配なしです! いい仲間に出会えて、また現地のスタッフさんと英語でコミュニケーションをとったりと、本当に勉強になりました。タイが本当に好きになりました。またハビタットの活動に参加して、タイや他の国にも行きたいです。

◆ 2012年春もタイへ2チームを派遣予定! 詳細は11月以降発表

- ① 1st チーム: 2012年2月下旬出発(バンコク郊外)
- ② 2nd チーム: 2012年3月上旬出発(バンコク郊外)

【ここがポイント!】住居建築活動以外にも、現地の孤児院、小学校あるいは幼稚園を訪問し異文化交流を行います。また、これまでのチームが建てたハビタットハウスへの訪問や現地文化に触れる市内観光を予定しています。

編集後記

先日、宮城県東松島市の応急仮設住宅地を視察しました。天気が悪く、風が出ていたせいもありますが、10月初旬にもかかわらず、その寒さは秋ではなく冬を感じさせるほどでした。東北は間もなく厳しい冬を迎えますが、適切な住まいや十分な保温設備を欠く中、防寒対策が喫緊の課題です。東北支援はまだまだこれから。ハビタット・ジャパンでは、海外支援と並行しながら、引き続き東北支援に全力を注いでいきます。心を一つに、がんばろう日本。

寄付・助成金リスト(2011.7.1-9.30)

皆さまの温かいご支援ありがとうございました。(敬称略・順不同)

7/11	Net Hope	396,950
7/12	同志社大学CC(Doshisha Habitat) 立命館大学CC(TOM SAWYER)	110,534
7/14	関西学院大学CC(Eco-Habitat関西学院) 神戸市外国語大学CC(KOBE Gaidai Habitat)	130,950
7/14	Alexander and Lola Winter (Tompkins Charitable Gift Fund)	77,770
7/15	Bloomberg L.P.	418,000
7/15	関西大学CC(Muster Peace)	41,397
7/19	安保 亮	3,000
7/20	立命館アジア太平洋大学CC(Habitat APU)	89,949
7/20	神田外語大学CC(HFH KUIS)	17,000
7/20	Habitat for Humanity Europe	449,588
7/20	京都産業大学CC(Habitarius)	56,022
7/25	東海大学CC(Same Same but TOKAI)	114,335
7/29	関西学院大学CC(上ヶ原ハビタット)	77,987
7/29	東海大学CC(Same Same but TOKAI)	81,000
7/29	同志社大学CC(Doshisha Habitat)	18,888
7/29	(特活)国際協力NGOセンター	303,760
8/1	稲垣 寛樹	5,000
8/1	麻生セメント労働組合	100,000
8/3	末田 清次	10,000
8/10	京都外国語大学CC(Kyoto Gaidai Habitat)	36,754
8/10	霧 雄亮	1,000
8/16	University of Sydney Union's Japanese Cultural Exchange Society	154,086
8/19	JCC関東	54,391
8/22	ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメントジャパン	1,013,862
8/24	神戸市外国語大学CC(KOBE Gaidai Habitat)	132,437
8/31	(特活)国際協力NGOセンター	136,251
8/31	ケーエルエー・テンコール	3,671,890
9/12	稲垣 寛樹	5,000
9/12	霧 雄亮	1,000
9/16	静岡文化芸術大学CC(SUAC HFH)	14,347
9/16	University of Pennsylvania Habitat for Humanity	72,803
9/26	関西学院大学CC(上ヶ原ハビタット)	29,685
9/29	石河 早苗	18,152
9/29	霧 雄亮	1,000
9/30	(特活)国際協力NGOセンター	24,650



ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパンは、住宅を建てることでコミュニティを築く自立支援型NGOとして、これまで、人種、宗教、国籍に関係なく、約100の国と地域で50万軒余の住宅建築支援を行って来ました。そして現在、世界中で21分に1軒のペースで住宅を建てています。

〒151-0051  
東京都渋谷区千駄ヶ谷1-13-11 CHARI千駄ヶ谷4F  
Tel: 03-6459-2070 / Fax: 03-6459-2071  
URL: www.habitatjp.org / Email: info@habitatjp.org

発行人: 小田 浩  
編集人: 山崎頭太郎、山本真太郎

